

る」ともしばしば。顧客の暮里、社長・根津訓光氏) 数が多いれば梱包仕様も 「何通り」に及ぶ。日々 納期対応に追われる現場に とつて作業は煩雑だ。

梱包情報を大型モニタ画面に映し出し、バンド仕様やスキッド形状など項目別に簡潔に表示するとともに、梱包イメージ(完成図)も可視化した。

では、顧客ごとに指定され 「繁忙」でもヒューマンエラーは許されない。

浦安事業所(浦安第1鉄鋼団地内)の大型レバーラインのパイラー上に、50

この問題を解決するため、有力CCの根津鋼材(本社・東京都荒川区東日暮)は、許されない。

チジンのモニタ画面を左右に2台セット。画面には「バン台セット」「外装仕様」「スキッド仕様」「外装仕様」「スキッド材質」「スキッド形状」「機能柄の有無」「その他特記事項」の項目ごとに必要な情報を記し、その横には梱包特記欄(荷姿)が一目瞭然だ。

CCでは各種梱包仕様を

4桁のコードナンバー化すれば、かつ図柄もカラーで分かりやすいので、少し離れた梱包作業場からも梱包仕様(荷姿)が一目瞭然だ。

浦安事業所(浦安第1鉄鋼団地内)の大型レバーラインのパイラー上に、50

今回、この数字コードにオーリジナルの「梱包モニタ」システムを加え、浦安事業所で運用を始めた。簡便な文字情報とイラストによる「見える化」でライン繁忙時に対応するケースもあり、同社も実施する。

CCでは各種梱包仕様を

4桁のコードナンバー化すれば、かつ図柄もカラーで分かりやすいので、少し離れた梱包作業場からも梱包仕様(荷姿)が一目瞭然だ。

顧客指定の「梱包仕様」

大画面モニタに表示、確認容易に 可視化で作業効率改善

根津鋼材

コイルセンター(CC)

ではレベラーカットシート

製品やスリットフレップ製品

を出荷する際に必ず梱包す

るが、その梱包仕様は顧客指定によって千差万別。

顧客は荷卸し方法や保管

方法、使用するまでの期間

などを考慮して梱包仕様を

定め、CCに依頼する。従

つて、中身が同じでも納入

場所が異なると仕様が変わ



これを踏まえ、同社では他ライン、他拠点へも段階的に水平展開することでき、成果を挙げている。

これで、顧客満足度向上につなげていく考え。フレップ梱包についても準備を進めている。

▼4面「鉄鋼関連・流通加工」版に連記事

大型モニタ画面(左上)を確認しながら梱包作業、写真下は画面の拡大